

令和 8 年 8 月 19 日

かかりつけ医による産後ケアの実践格差 “学ぶ機会”が包括的な産後ケアの鍵！ ～アンケート調査報告～

＜研究成果のポイント＞

- 産後ケア 13 項目のうち、「妊娠に関連しない慢性疾患のフォローアップ」、「育児支援」、「母親の健康管理」（がん検診、予防接種など）は比較的实践されていましたが、「親密なパートナーからの暴力のスクリーニング」、「性に関する健康問題」、「職場復帰の支援」、「産後の婦人科診察」の領域は十分に行われていませんでした。
- とくに「親密なパートナーからの暴力のスクリーニング」は、重要と考えられている一方で実践が低く、認識と実践の間に最も大きなギャップがありました。
- 13 項目すべてに共通して、各項目に関する「教育を受けた経験」が実践を後押しする要因でした。

※本研究成果は、学術誌 Journal of General and Family Medicine に **日本時間 2026 年 8 月 7 日** に掲載されました。

＜概要＞

本学地域家庭医療学講座の鳴本敬一郎特任准教授らの研究グループは、日本のかかりつけ医（本研究では総合診療専門医・家庭医療専門医^{*1}と定義）を対象に、13 項目の産後ケアについて、重要性の認識、実践状況、そして実践を促進する要因に関するアンケート調査を行いました。「妊娠に関連しない慢性疾患のフォローアップ」や「母親の健康管理」は実践頻度が高い一方、「親密なパートナーからの暴力のスクリーニング」や「性に関する健康問題」、「職場復帰の支援」、「産後の婦人科診察」は実践頻度が低い傾向がみられました。特に、「親密なパートナーからの暴力のスクリーニング」は、重要性の認識が高いにもかかわらず実践が低く、認識と実践の間に最も大きなギャップがある領域でした。また、13 項目すべてに共通して、各項目に関する教育を受けた経験が実践を促進する要因であることが示されました。

＜研究の背景＞

出産後の女性は、身体面だけでなく、心理面や生活面も含めた継続的な支援を必要とします。支援内容は産後の時間経過の中で時期によって変化し、必要な支援は、母親だけでなく、乳幼児やパートナー・家族の状況も踏まえて評価する必要があります。かかりつけ医制度が比較的整っている欧米では、かかりつけ医が産後ケアを担うことが一般的です。一方で、日本では産後ケアがどこまでかかりつけ医に担われているのか、十分に分かっていませんでした。地域で出産後の女性を継続的に支える体制づくりに向けて、かかりつけ医による産後ケアの実態把握が求められていました。

＜研究手法・成果＞

本研究は、日本のかかりつけ医（本研究では総合診療専門医・家庭医療専門医と定義）を対象としたアンケートによる横断調査です。259 件の回答を分析し、産後ケア 13 項目（参考図 1 を参照）について「重要性の認識」「実践状況」を調べ、実践を促進する要因について分析しました。

その結果、「妊娠に関連しない慢性疾患のフォローアップ」、「育児支援」、「母親の健康管理」（がん検診、予防接種など）は比較的实践されていましたが、「親密なパートナーからの暴力

のスクリーニング」、「性に関する健康問題」、「職場復帰の支援」、「産後の婦人科診察」の領域は十分には実践されていませんでした。このように、項目ごとに実践の程度に差があることが分かりました（本論文の Figure 1）。

また、「重要性の認識」と「実践状況」をマッピングしたところ、「親密なパートナーからの暴力のスクリーニング」という領域は、重要性の認識が高いにもかかわらず実践が低く、認識と実践のギャップが最も大きい領域であることが分かりました（本論文の Figure 2）。

さらに、産後ケア実践の促進因子の分析では、13 項目すべてに共通して、各項目に関する「教育を受けた経験」が実践を後押しする要因であることが分かりました。その他にも、女性医師、乳児の予防接種を行っていること、育児経験や産後の問題を自らが経験していること、へき地で診療していることが特定の産後ケア項目を促進する因子であることが明らかになりました。

＜今後の展開＞

今後は、かかりつけ医向けの教育機会を充実させることで、産後ケアの実践を地域で広げられる可能性があります。とくに、暴力被害の把握など見落とされやすい領域を重点的に学べる仕組みづくりが重要です。母子とパートナー・家族を地域で切れ目なく支える体制づくり、そして医学部での卒前教育や卒後の医学教育において、今回の知見が役立つことが期待されます。

＜用語解説＞

*1 総合診療医・家庭医療専門医：身近にあり、なんでも相談に乗ってくれる総合的な医療「プライマリ・ケア」を提供する医師のこと。

＜発表雑誌＞

Journal of General and Family Medicine

(<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/jgf2.70158>)

＜論文タイトル＞

Postnatal Care Practice and the Facilitating Factors Among Japanese Primary Care Physicians: A Cross-Sectional Study（プライマリ・ケア医による産後ケアと促進因子：横断研究）

＜著者＞

遠藤美穂、鳴本敬一郎、金子惇、岩田智子、杉村基、井上真智子

＜研究グループ＞

浜松医科大学 地域家庭医療学講座

＜本件に関するお問い合わせ先＞

浜松医科大学 地域家庭医療学講座 特任准教授 鳴本敬一郎

メール：narumotok@hama-med.ac.jp 電話：053-435-2416

<参考図>

1. 産後ケアに含まれる 13 項目

産後ケアに含まれる健康の13項目

- ① 産後の婦人科診察
- ② 産後の身体的回復
- ③ 妊娠関連の合併症のフォロー（妊娠糖尿病や妊娠高血圧症候群など）
- ④ 妊娠に関連しない慢性疾患のフォロー（気管支喘息や肥満など）
- ⑤ 母乳育児および乳房に関する問題（乳腺炎など）
- ⑥ 乳幼児のケア
- ⑦ 性に関する健康問題（性欲減退、性交痛など）
- ⑧ 家族計画（適切な避妊法の選択と使用、次の妊娠の時期の相談など）
- ⑨ 母親のメンタルヘルス
- ⑩ 家族・パートナーのメンタルヘルス
- ⑪ 母親の健康管理（栄養、身体活動、喫煙など）
- ⑫ 親密なパートナーによる暴力のスクリーニング
- ⑬ 職場復帰の支援